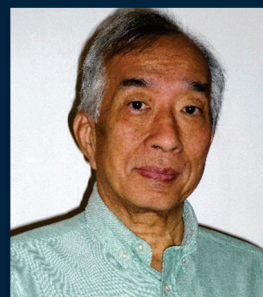


がん転移のメカニズムーパラダイムシフトへの挑戦

辻 孝憲 先生

タフツ大学医学部メディカルセンター研究員



要 旨

がん細胞が転移する場合、上皮系がん細胞はまず上皮間葉転換（Epithelial-mesenchymal Transition: EMT）を起こし、間葉系細胞の性質を獲得します。従来の学説では間葉系に変化したがん細胞が浸潤し、血流に入り、転移先の臓器で間葉上皮転換（Mesenchymal-epithelial Transition；MET）を起こして原発組織と同じ組織型の転移巣を形成するとされてきました。私たちはこの学説に疑問を抱き、上皮系がん細胞と間葉系がん細胞が共同作業を行なって転移するという Collaborative Metastasis Theory（協働的転移論）という新しい学説を提案し現在まで広く受け入れられています。現在、EMT の過程は上皮系細胞から間葉系細胞へ徐々に直線的に変化すると考えられ、その中間型として上皮と間葉の両方の性質を持った Hybrid-EMT 細胞が注目されていますが、私たちは上皮系細胞が一度脱分化して幹細胞様になった後、間葉系細胞へ再分化するという仮説を立て、現在確認するための実験を行っており、この結果をご紹介できればと思います。

略 歴

1985 年	東京歯科大学大学院歯学研究科（病理学専攻）修了
1985-1987 年	カナダ・トロント大学歯学部
1987-1990 年	岡山大学歯学部口腔病理学講座
1990-1991 年	フランス・ストラスブール大学医学部 ルイ・パスツール校
1991-2000 年	アメリカ・ハーバード大学歯学部口腔病理学講座
2000-2010 年	アメリカ・ハーバード大学医学部病理学講座
2025 年	アメリカ・タフツ大学医学部メディカルセンター

日 時：2026 年 4 月 27 日（月）18:00～19:00

場 所：東京歯科大学 水道橋校舎本館 13F 第 2 講義室
東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

対 象：大学院生， 歯科医師， 歯科衛生士， 研究者， 学生

共催：ウェルビーイングプロジェクト， 口腔科学研究センター研究推進支援部



Well-being PRJ